

平成23年3月11日
島 根 県

「オキシリニック酸剤」耐性イネもみ枯細菌病菌の発生状況について

イネもみ枯細菌病の防除薬剤の一つであるオキシリニック酸剤（商品名：スターナの名前を含む剤）に対する薬剤耐性菌は、他県で発生が確認され、本病に対する防除効果の低下が報告されています。

島根県においても、本年度オキシリニック酸剤の種子消毒で効果低下事例が発生したため、県内で採集された菌株を用いて本剤に対する耐性菌調査を行いました。その結果、耐性菌の割合が高いことがわかりましたので、技術資料を発表します。

記

1. オキシリニック酸剤耐性菌の発生状況

- 1) 平成17年～22年に採集した21圃場84菌株を耐性菌検定に供試した結果、耐性菌発生圃場率71.4%、耐性菌株率72.6%と耐性菌率が高いことが認められた（表1）。

表1 オキシリニック酸剤耐性菌の発生状況

調査地域	調 査	耐性菌	調 査	耐性菌
	圃場数	発 生 圃場率 (%)	菌株数	株 率 (%)
松江市	14	71.4	45	71.1
出雲市	4	100	28	100
雲南市	1	100	1	100
大田市	1	0	5	0
隠岐の島町	1	0	5	0
県全体	21	71.4	84	72.6

- 2) なお、イネもみ枯細菌病の防除薬剤であるカスガマイシン剤（商品名：カスミン、カスラブ、ダブルカット、フタバロンの名前を含む剤）についても耐性菌検定を行った結果、全ての菌株で耐性菌は確認されなかった。

2. 防除対策

オキシリニック酸剤耐性菌の割合が高いことから、健全な種子生産を求められる採種圃場では以下のような対策を行う。

- 1) オキシリニック酸剤は使用しない。
- 2) イネもみ枯細菌病の防除薬剤であるカスガマイシン剤については、島根県での耐性菌の発生は認めていないが、他県では発生が認められており、今後、耐性を発達させないために原則年1回までの使用とする。